

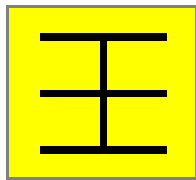
メダちゃんは考えた。「漢字練習は《書く》のではなく、《見る》のだ」と、ジャンケン先生は言っていた。でも、どこを見ればいいのか、よくわからない。先生に聞いてみよう。

先生「漢字には秘密が隠れている。その秘密を発見すればいい。だから、メダちゃんが《漢字の秘密発見隊》になって、《漢字を見る》のです。」

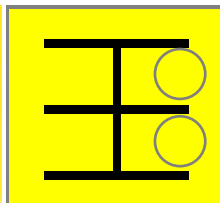
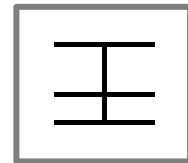
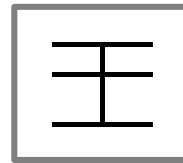
メダ「漢字の秘密発見隊か、なるほど。でも、先生、そんなこと、私にできますか。」

先生「できます。もうできていますよ。メダちゃんは秘密を発見していますよ。」

メダ「えっ、私が発見、秘密を。どこ、どこ、どこですか。」



左はメダちゃんを書いた漢字。
右は他の子が書いた漢字。
くらべてみなさい。

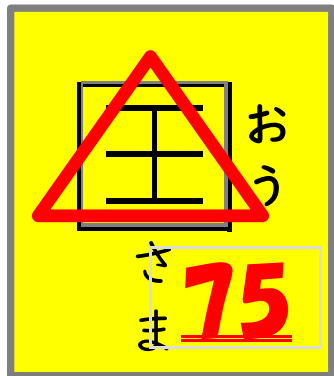


お手本の字は、横画の間がそろっています。メダちゃんの字もそうになっています。「横画の間が同じ」という秘密を、メダちゃんは発見していたのです。

先生の話聞いたメダちゃんはこう思った。

《画の数》《画の長さ》《画の間》 こういう秘密を発見すればいいのだ。それが漢字の秘密発見隊…なんだか、楽しくなってきた。

すると、先生がこう言いました。「そうか、メダちゃんは《画の間》を発見していたのですね。とすると、メダちゃんの答は50点ではなく、75点にしましょう。」



メダちゃんのないしょ話

「点数を75点にしてもらって、うれしかったの。それで、となりの席のドロちゃんにテストを見せてしまった。そうしたら、ドロちゃんも自分のテストを私に見せてくれたの。そのテストを見て、私はびっくりぎょうてん。だって、先生がまちがって点数をつけているの。」

この次は、先生のまちがえを教えてあげるね。でも、これ、ないしょの話よ。」 つづく